がま船 中村勇生プロデュース シーファングマルイカ いよいよ出番、真価を発揮しろ！

◉例年に比べ、やや出遅れていたマルイカがようやくシーズンイン、とともに中村勇生プロデュースの「がま船シーファングマルイカ」がいよいよ真価を発揮するときがきた。これから夏までのロングラン、AR（オールマイティ）とZT（ゼロテン）の2アイテムを中村勇生はどう使いこなし、どんな結果を残していくだろうか。

▲待ちかねたマルイカファンがドッと繰り出した
◀当日は2タイプあるうち、ARからのスタートとなった（左）
▲当日のスターティングメンバー。オモリは50号を使用

シーファングマルイカの発売は昨年11月。シーズンインにはほど遠い時期でもあったが、中村勇生（いさお）プロデュースの竿とあって、すぐさま店頭から消えた釣具店もあったという。

ところが例年なら1月ごろには釣れ始まるマルイカが、今期は2月の声を聞いてようやく釣期イン。マルイカファンは言うに及ばず、中村勇生にとっても待ちかねたシーズンの始まりとなった。

今回乗船したのは、ファンにとってもおなじみ、三浦半島長井新宿港の小見山丸。この日は強い北風が吹き付けるあいにくのコンディション。

「アタリが取れるかなぁ」と船長も心配顔。ともあれ10名の乗船者とともに6時半、出船となった。

40分近く走って城ケ島西沖80メートルダチに着き、さっそく反応を探しながらのクルージング。中村が手に取ったのはAR。

「初期は水深が深いこともあってARの出番が多くなります。ましてこの風ならなおさらです」

ARはブランコ仕掛け、誘い上げ釣法などにも使用できる万能タイプ。ゼロテン専用竿に比べ、穂先の長さ、曲がり幅も抑えてあるので、深場や重めのオモリ（50～60号）でもレスポンスよく扱えるのが特長。何より風が強い日でもブレが少ないので、タタキのあとに穂先がピタッと止まり、アタリを取りやすいのだ。

10分ほどしてこの日初めての投入合図。中村はオモリ着底、タタキ、止め、時どき巻き落としというゼロテンパターンを繰り返す。しかし船中でも乗りがなく、しばらくして移動の合図。

この日は速い潮に加えて、潮が澄みすぎているせいか、反応があっても群れの移動が速いようだ。

中村がようやく乗りをとらえたのが9時ごろ。タタキのあと、穂先の小さな揺れにすかさず合わせると、ARが心地よく曲がった。

「掛けた後の乗り感を出すため、穂持から胴にかけての調子、荷重変化にこだわったのがこの竿の特長です」と言いながら80メートルの水深を手巻きリールで巻き続け、この日初となる20センチ級を釣り上げた。

ところがその後も潮回りを繰り返すものの、乗りは単発で、12時までに中村は1杯を追加するにとどまる。いくぶん風が弱まったころを見計らって、ZTにチェンジ。

「ゼロテン釣法に特化した調子ですが、専用竿に比べ穂先の長さは抑えつつ、乗り感の表現力も十分です」

適度な穂先の長さは目感度はもちろん、「止め」のときでも穂先がブレない。食い上げの戻りアタリもしっかり表現してくれるのだという。

ZTに持ち替えると、中村のゼロテン釣法がいっそう堂に入ってきたが、相変わらず群れの移動が速く、乗りは徐々に遠のいていく。

13時半に納竿。この日は谷間のような一日、他船も含めて全般的に乗りは今一つだった。それでもシーファングマルイカの実力は披露できたようで、釣りの最中も中村が質問攻めにあう場面も見られた。

「もう少し浅場に移ってマルイカ本来の釣りができれば、この竿の真価がもっと発揮できると思います」と確信をもって語る中村だった。

タタキ

止め

合わせ

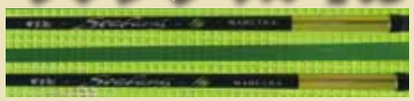
▲胴長15センチがメインだった

ゼロテン釣法 一連の流れ

Gamakatsu がま船 Seafang MARUIKA

がま船 シーファングマルイカ

◉シーファングマルイカ(protomodel)



◉マルイカゼロテン釣法の名手、中村勇生が全面プロデュースした竿。中村自身の長い経験と実績の末に誕生したシーファングマルイカは、従来のマルイカ専用竿にはない特長を持つ。目感度を優先した穂先が細く長い竿は、初心者～中級者には扱いづらいうえ、ウネリや風の影響を受けやすく穂先が止めづらいのが欠点。シーファングマルイカは目感度によるアタリ感知をギリギリキープした適度な穂先の長さを設定。なおかつマイクロサイズでも乗り感のつかめる荷重変化に優れた調子を実現した。2アイテムとも道糸が絡みにくく、竿の素材を生かすスパイラルガイドと、軽量化と感度性能を高めるリザウンドグリップ、グリップジョイントの2本継ぎを採用。現在発売中。

★152AR＝ゼロテンだけでなく、誘い上げ（宙の釣り）にも対応。オモリ負荷対応域も広く、浅場から深場まで使用可能。

★151ZT＝ゼロテン専用モデルとしての設定。止めに入ったときブレを抑えた穂先を備えているので、アタリの感知から合わせがスピーディに行える。

ZTでのゼロテン

ARでのゼロテン

タイプ	標準全長(m)	希望本体価格(円)	標準自重(g)	仕舞寸法(cm)	使用材料(%)	モーメント	継数(本)	先径(mm)	錘負荷(号)
AR	1.52	39,800	77	116.0	C91.9 G8.1	3.5	2	0.9	20～60
ZT	1.51	39,800	79	116.0	C89.3 G10.7	3.5	2	0.8	20～60

※C＝カーボンファイバー、G＝グラスファイバー ※モーメント＝標準自重（kg）×竿尻から重心までの長さ（cm）※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用しています。

◉Presented by Gamakatsu 問い合わせ＝がまかつ㈱0800・222・5895

取材協力◉三浦半島長井新宿港・小見山丸